

## 平成 30 年秋期 富岡西・能見台地区推進連絡会

### 1 日時

平成 30 年 11 月 30 日（金）13:30～15:00

### 2 場所

能見台サウスヒル第一集会所

### 3 参加者

（地域側）町内会長・副会長・民生委員等 7 名

（支援チーム、その他行政側）

区役所 14 名

区社会福祉協議会、地域ケアプラザ 6 名

### 4 意見交換要旨

#### （1）防災対策について

##### 【地域意見】

・地域防災拠点において、在宅避難者も避難者カードを記入して拠点に提出することについて、町内会全世帯に提出させることは難しい。また行政は世帯数を把握しているはずなので、物資の必要数は分かるのではないかと（事前質問）。

##### 【支援チーム】

・可能な限りで協力をお願いしたい。より多くの情報を収集することで、拠点と災害対策本部による円滑な避難者支援につながる。また、市の備蓄品は限りがあるため、各拠点の必要性を検討して物資配送する判断材料として在宅避難者も把握したい。

・新耐震基準後に建てられた建物は大丈夫かもしれないが、人間心理として「不安だから」避難する人も多く、発災時の行動は予測ができない。また、過去の災害では、避難所毎の物資の過不足がどうしても発生しており、避難所ごと、物資毎の過不足の把握が必要となる。実際にその場で起きた状況に即してデータを集めたい。

##### 【地域意見】

・マンションとして防災訓練を実施している。拠点とは連携をするが逃げる所という意識は低い。駐輪場を整備して新しい備蓄庫を設置して、水、食料、トイレなどを備蓄している。

・隣のマンションと合同で訓練している。また管理組合と自治会で二つの訓練をしている。管理組合の備蓄品は契約により事業者が管理するが、自治会の備蓄品は役員が担っておりメンテ等が難しい。管理会社への委託も検討している。

- ・防災サポーターは現在 58 人。男女比は 6:4. 任期なしで継続してもらっている。発災時に何をしなければならないかを考え、周囲に指示できるようになって欲しい、と言っている。女性ならば力はないけど、周りの人を使うように、など。
- ・安否確認は自治会の班長が担当する。訓練を通して理解してもらい、班長は数年で変わるが、10 年経ったら多くの人に分かっている状態になる。多くの人に経験してもらえるように工夫している。
- ・何をやっても難しいというのが実情。入れ替わりもあり、隣が誰か分からないという事も多い。入居時には乾パン、防災トイレなどを配布している。また何か起きたら広場に集まることは決めている。避難するよりも自宅に留まっていた方が安全。
- ・エレベーターの改修があり 5 日間使えない計画だったが、交渉して 4 日にしてもらった。それでも 10 階からの上り下りは大変だった。

#### 【支援チーム】

- ・他地域でのマンションの防災面での課題として、自家発電機があったが、エレベーターをどう動かして良いのかが分からずに困った、安全確認は他への移動が大変なので班長が確認するように変えた、また「怖い」「不安だ」ということで集会室に逃げてきた人がいて対応に困った、等の話を聞いた。

#### 【地域意見】

- ・20 階建てだが、東日本大震災の時にはやはり不安だということで 1 階のロビーに人が集まり、情報交換の場となった。備蓄庫を真ん中の 10 階に置く必要があると思った。
- ・自家発電機の目的は、エレベーターではなくて防火設備用とのことで、エレベーター会社が来るまでは復旧しなかった。

#### (2) その他

#### 【地域意見】

- ・ごみについて、前日に出されて当日は一杯という状況があり、掲示を何回か行う事で改善してきた。
- ・春の地区推進連絡会で発災時の下水の対応について質問したが、後日に、下水管が破損したかをチェックする方法がなく、現実問題として短期間に全てはチェックしきれない、しかしトイレは我慢できないので、まず使用してもらい判明したらそこから止める、という説明を受けて納得した。